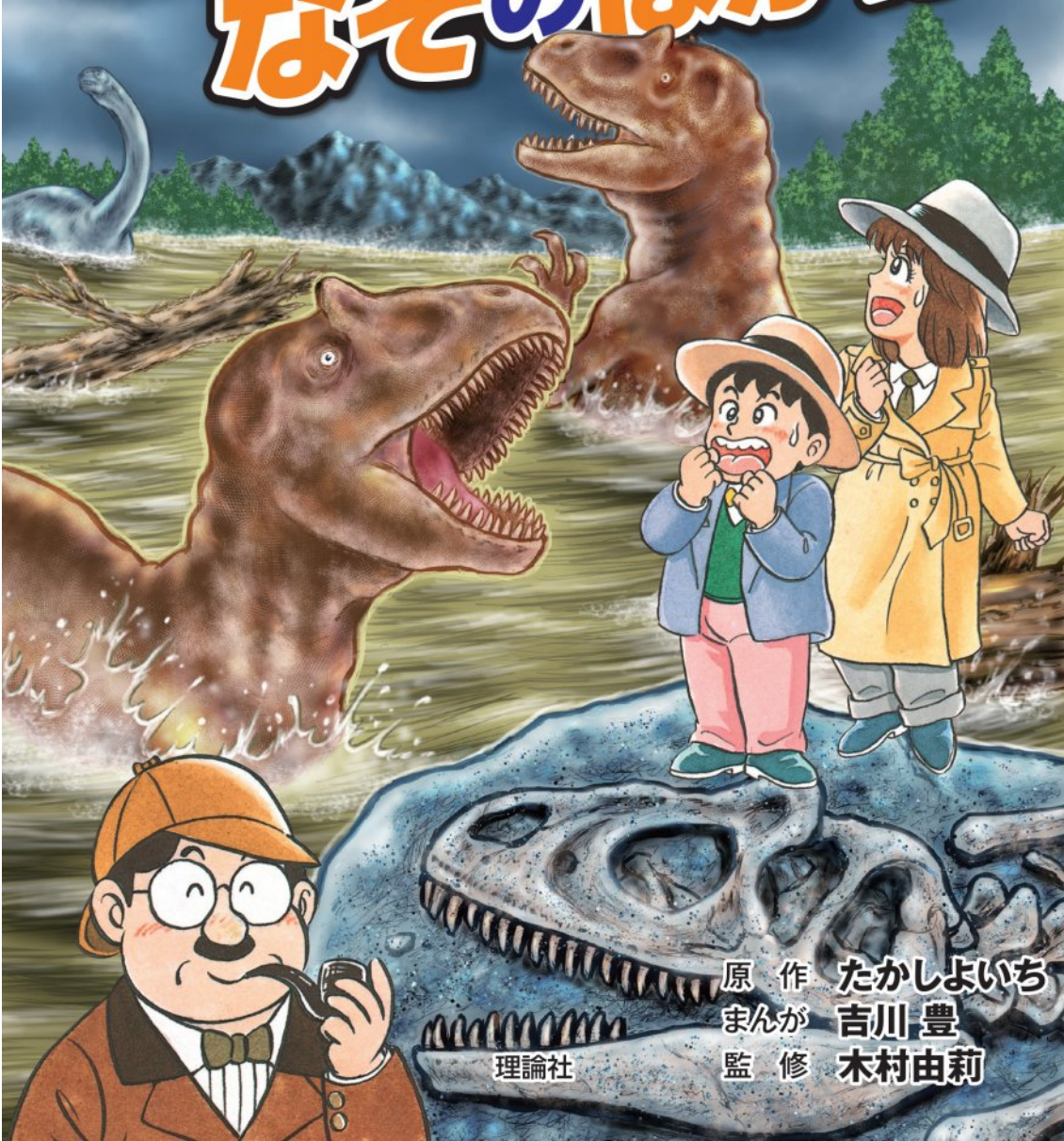


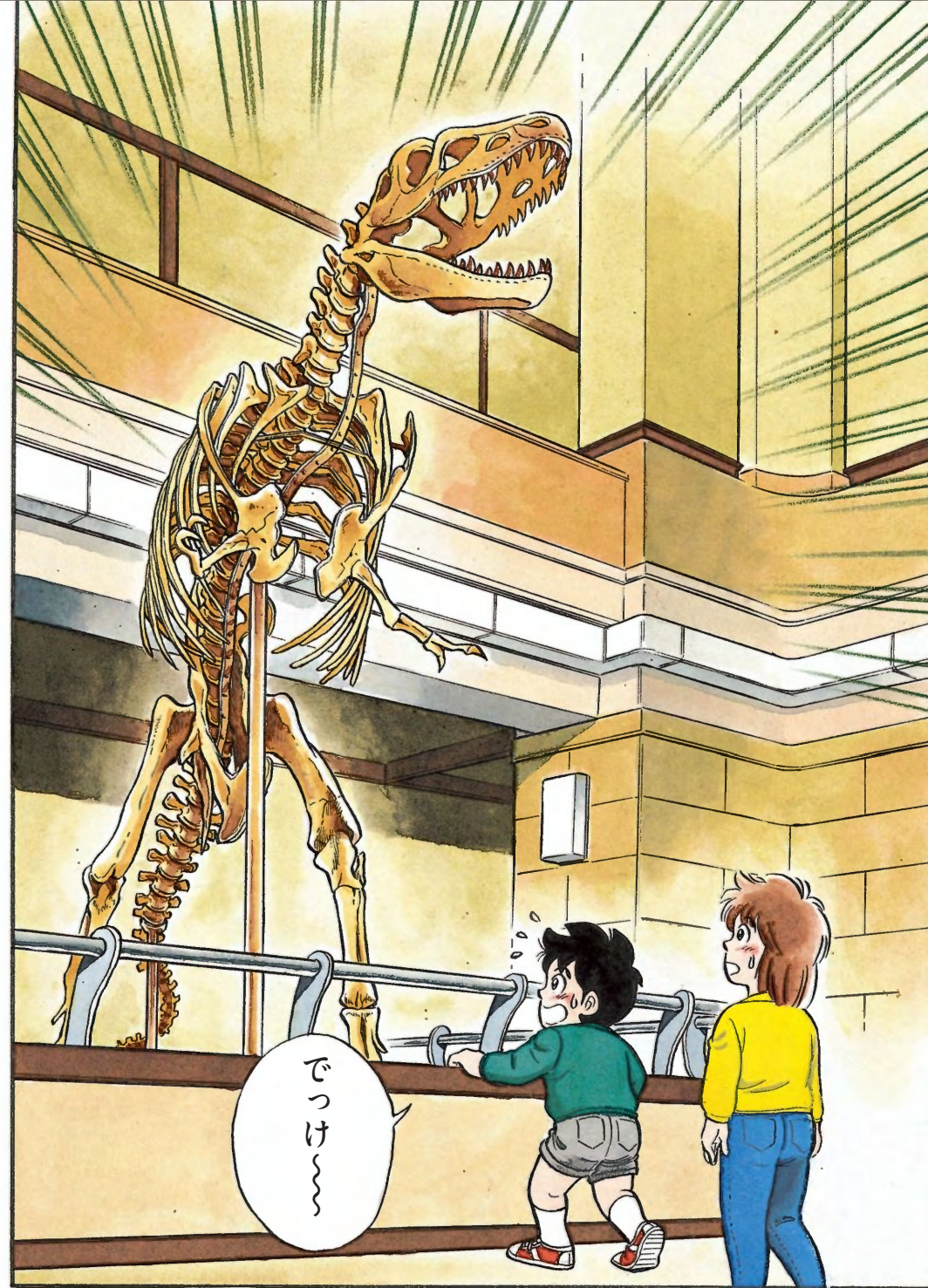
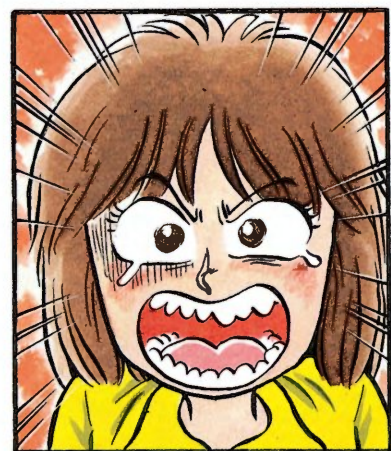
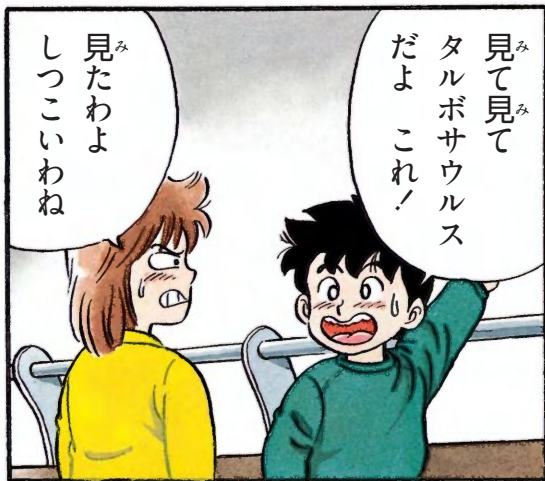
まんが 伝説の化石ハンター

きょうりゅう なぞのはかば



原作 たかしよいち
まんが 吉川豊
監修 木村由莉

理論社

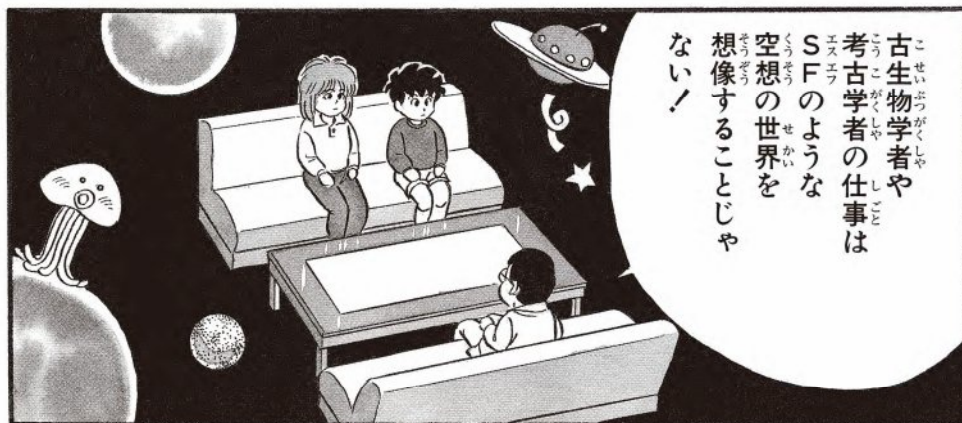




イメージ



どうだい
アロサウルスが
肉食だった
ことがよく
わかるだろ



古生物学者や
考古学者の仕事は
SFのような
空想の世界を
想像することじゃ
ない!



アロサウルスのとくちょう

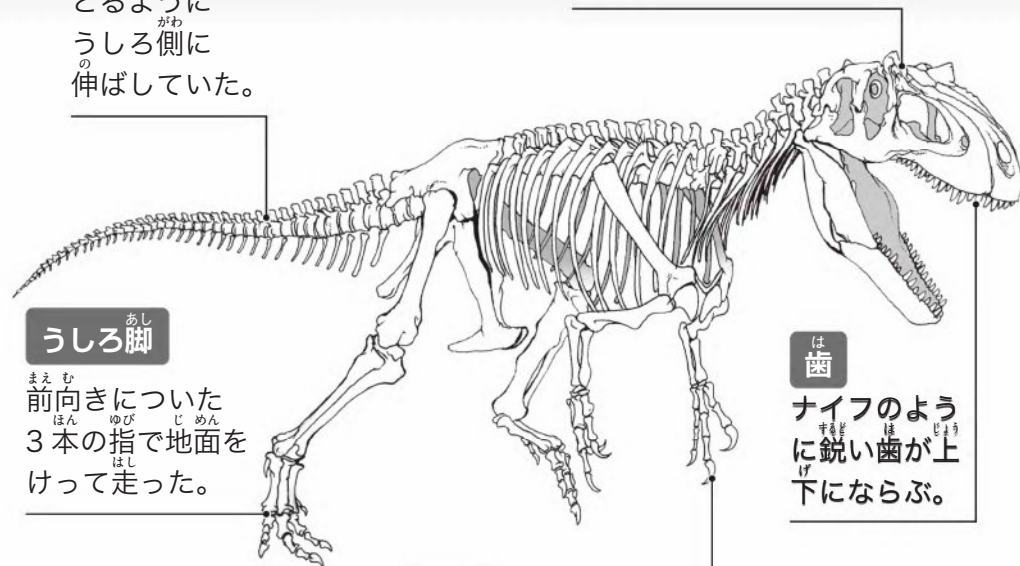


あたま
頭

頭の骨は軽く、
目の上に角のような
でっぱりがある。

しっぽ

あたま
頭とバランスを
とるように
うしろ側
に
伸ばしていた。



あし
うしろ脚

まえむ
前向きについた
ほん
3本の指で地面を
けて走った。

は
歯

ナイフのよう
に鋭い歯が上
下にならぶ。

まえあし
前脚

ほん
3本の指に長くて鋭い
「かぎづめ」がある。

化石などからわかったこと

- 時速約40キロのスピードで走り、獲物を追いかけた。
- 鋭いかぎづめで獲物をおさえつけた。
- 軽い頭を力強くふりおろし、歯を獲物に突き刺した。
- ナイフのような歯で、獲物の肉を食いちぎった。

コープとマーシュ

きょうりゅう研究を推し進めた「大ゲンカ」!

世紀の大ゲンカ勃発!

十九世紀後半のアメリカでは、二人の化石ハンターが、次々に化石を発掘していった。エドワード・コープと、オスニエル・マーシュです。実はかれらは犬猿の仲。はじめは仲がよかったのですが、発掘場所を取りあい、おたがいのまちがいを指摘しあううちに、その仲にひびが入っていったのです。ついには「化石戦争」と呼ばれる、世紀の

大ゲンカが勃発します。
二人の「化石戦争」

コープもマーシュも「あいづには負けない」と発掘に没頭しました。その結果はめざましく、コープはカマラサウルスなど五十六種、マーシュはアロサウルスなど八十種の化石を発表しています。

しかし、その発表にはまちがいが多かったことがわかっていきます。きつと二人とも頭に血がのぼり、確認作業をお

ろそかにしたのでしょう。化石の種類をまちがえたり、同じきょうりゅうに二つの名前をつけたり……。これらのまちがいは、のちの研究を混乱させる原因にもなりました。優秀な発掘スタッフを取り合ったり、相手方にわたるのをおそれて化石を破壊したりと、大人げない争いごともあり、録に残ってしまいました。

かれらが残したもの

かれらが発掘した化石の

化石戦争

80種発見

アロサウルス、カンプトサウルス、ステゴサウルス、アパトサウルス、トリケラトプスなど

56種発見

カマラサウルス、コエロフィシス、エラスモサウルス(首長竜)、チャンプソサウルス(は虫類)など



オスニエル・チャールズ・マーシュ
1831年生まれ。イエール大学で教授を務めた古生物学者。数多くのスタッフを雇い、大学の博物館に膨大な標本を集めた。ほ乳類の化石などの論文も執筆。1899年没。



エドワード・ドリンカー・コープ
1840年生まれ。ペンシルベニア州フィラデルフィアを拠点にして活躍した動物学者・古生物学者。化石だけでなく、現生の魚類や虫類なども研究した。1897年没。



数々は貴重で、量もぼう大で役立ったことは、まぎれもない事実です。「化石戦争」が、きょうりゅう研究を推し進めた、ともいえるでしょう。では、かれらのけんかは、結果的に「よいこと」だったのでしょうか。現代の化石ハンターは、協力して発掘を進めるのが常識です。それは、足りない部分をおぎないあうことが、研究を進めるうえで大切なことだとわかってきているからです。コープとマーシュがもし、協力しあって発掘をつづけていたら……。そんなふうになると、少しもつたない気持ちもわいてきませんか?

